

戦国時代を終息させた徳川家康は、「武」によらず「文」によって日本を治めることを意図しました。家康は日本や中国の古典籍、特に政治や法律、歴史書を収集し、自らひもとくだけでなく、これを積極的に出版して世間に広めようとしてきました。印刷には、当時盛んになってきた木版印刷だけでなく、新技術の金属活字を用いた活版印刷も一部で行われました。

太平の世の到来とともに印刷出版は大いに盛んになり、書籍発行数も増えて、一般の人々が書物を手にとることができるようになりました。書物のうちには、読み書きを習う手本となったものもあり、各地に設けられた寺子屋では生活・生業に必要な基本的知識を身に付けることができました。また教養を高めたいと望む人々は農業、商業等の仕事の合間に書物を読み、師匠のもとに通って学問に努めました。

幕末に伝来した新しい活版印刷は、木版印刷をたちまち過去のものとし、書物と知識への欲求と相まってベストセラーを生みました。明治5年(一八七二)の学制発布により、教育制度が整備され、誰もが教育を受けられるようになり、これに使用する教科書の供給も活版印刷の導入により円滑に進みました。

今回の特別展では手習い書として使用された江戸時代の書籍と近代の教科書をあわせて展示し、書籍の形態と内容の変化を示します。また、江戸時代から明治初期までの和装本のうち、教養書として読まれた漢籍類などを展示します。



論語(江戸後期)



庭訓往来(江戸後期)



日本読本(明治)



物理学教科書(昭和戦前)



和漢三才図絵(江戸後期)



千葉県郷土地誌(明治)



尋常小学全科学習書(昭和戦前)



新しい国語(昭和戦後)



- | | |
|------|--|
| 展示会場 | 千葉市立郷土博物館 2階企画展示室 |
| 開館時間 | 9:00~17:00 (ただし、入館は16:30まで) |
| 休館日 | 月曜日、祝日、年末年始(12月29日~1月3日)、1月13日(火) |
| 入館料 | 一般 60円(50円) / 小・中学生 30円(25円)
※カッコ内は団体料金(30人以上)
※市内在住の65歳以上の方は無料(身分証明書等をご提示ください) |
| 交通案内 | <ul style="list-style-type: none"> JR千葉駅下車 バス乗り場7番から、京成バス千葉大学病院行きまたは南矢作行き(千03、千03-1、千04)で「郷土博物館・千葉県文化会館」下車、徒歩3分 千葉モノレール「県庁前」下車、徒歩13分 JR本千葉駅下車、徒歩15分 |

千葉市立郷土博物館

〒260-0856 千葉市中央区亥鼻1-6-1
TEL : 043-222-8231 FAX : 043-225-7106
http://www.city.chiba.jp/edl/kyodo/kyodo_top.html